

## ●●● 堆肥センター協議会の活動状況 ●●●

### 静岡県良質たい肥生産流通促進協議会の活動について

静岡県農業水産部家畜衛生室  
鈴木隆春

#### 1 はじめに

静岡県は日本のほぼ中央の太平洋側に位置し、東西155km、南北118kmで全国13番目の広さを有しています。本県は温暖な気候と、人、もの、情報が行き交う東西交通の要所という優位性、また先人たちの創意工夫によって、県下各地で多彩で豊かな農林水産物を生産しています。農業粗生産額は2,580億円(平成13年度)全国12位となっています。

本県の畜産は、長い歴史の中で培われた優れた生産技術と自然条件及び交通立地条件等に恵まれて、県民に新鮮で安全な畜産物を安定的に供給しています。農業粗生産額に占める畜産のそれは415億円(前年度比96.2%)で、その割合は16.1%と本県の農業の基幹産業となっています。このため、経営基盤の充実・強化及び環境保全型畜産・資源循環型農業を推進し、地域の特性や生産者の創意工夫を生かして、生産から処理、加工、流通、消費に至る総合的な振興を図っているところです。

さらに、消費型社会から循環型社会への転換が叫ばれている中、平成11年「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律」が施行され、家畜排せつ物の適正な管理と有機質資源としての堆肥を「土づくり」に有効利用し、地域と調和した資源循環型畜産経営を推進することが求められています。

静岡県における畜産堆肥の生産量を推計してみると、平成15年度の家畜飼養頭羽数から約65万トンとなり、県内の農作物作付面積に施肥基準どおり施用したと仮定した場合、たい肥の必要量は126万トンとなり、たい肥供給率は約52%と試算されます。しかし、稲作においてはほとんど利用されていないことや、お茶やみかんについては傾斜地が多いことからその利用も限られていて、さらに、耕種農家の高齢化や労働力不足等により、施肥基準より少なくなっています。

また、畜産地帯とたい肥の利用地域の乖離があることから、地域的なアンバランスが生じているのが実態であります。

このようななか、たい肥の流通利用の促進を図るため、平成12年10月に共同たい肥化施設を持つ40のたい肥生産組合を構成員とする「静岡県良質たい肥生産流通促進協議会」を設立し、平成15年3月末現在53の組合の加入のもと、耕種サイドとの連携強化、良質たい肥の生産技術の向上、たい肥施用技術の普及等を進めているところであります。

#### 2 協議会の概要

当協議会は、たい肥生産組合における良質たい肥の生産及び流通・利用の促進を図り、資源循環型農業の推進による地力の維持・増進及び農畜産業の安定的発展に寄与することを目的として設立されました。

当協議会では、上記目的を達成するため、次の事業を行うこととしています。

- (1)たい肥生産組合相互間の情報交換
- (2)たい肥生産組合の機能強化の推進
- (3)良質たい肥の生産技術の向上
- (4)たい肥の流通・利用の促進

- (5)たい肥生産組合の環境対策の推進
- (6)たい肥の施用技術等の普及
- (7)未利用有機質資源のたい肥化の推進

組織は、次の団体、機関を会員として構成しており、平成15年3月末現在の会員数は71会員となっています。

- ・ たい肥生産組合
- ・ 静岡県経済農業協同組合連合会等生産者団体
- ・ 県組織(8農林事務所、畜産関係2試験場、畜産行政2室)
- ・ (社)静岡県畜産協会

会長には、(社)静岡県畜産協会常務理事が就任しており、事務局も県畜産協会で受け持っています。会員のうちたい肥生産組合は、補助事業等により共同たい肥化施設を持ち、たい肥の生産を行っている組合で、現在53組合が加入しています。

### 3 協議会の主要活動内容

#### (1)平成14年度の活動実績

##### ア 畜産環境講演会

平成14年6月、役員会総会終了後、「たい肥施用の現状と今後の利用促進」と題し、(財)日本土壌協会猪俣敏郎先生にご講演をいただき、良質たい肥生産技術の研鑽と耕種農家等消費者ニーズに合った、たい肥生産に資するための講演会を実施しました。

##### イ 畜産環境技術研修会の開催(14年11月22日)

静岡県東部地域で、農家53名の参加を得て、

- ・ 「たい肥化処理の留意点」(畜産試験場)
- ・ 汚水処理及び臭気対策の留意点(中小家畜試験場)
- ・ 畜産環境対策の取組み(家畜衛生室)

について研修会を実施しました。

##### ウ 静岡県畜産たい肥共励会の開催(15年3月6日)

4回目となった今回は、酪農、肉牛、養豚、養鶏の4部門に合計67点の出品があり、審査員5名(県中小家畜試験場、畜産試験場、農業試験場及び県畜産協会、県畜産技術協会)と、たい肥の施用者の立場から耕種農家の代表として、茶、野菜、果樹、花き農家各2名、計8名の特別審査員を加え審査が行われ、最優秀賞には県知事賞が授与されました。

堆肥共励会終了後、同会場において、たい肥の生産流通に関する県下3地域の優良事例の発表会を実施しました。

その後、引き続き、農林水産省事業「食と農の応援団」団員の武田健先生から「良質たい肥は土を変え、作物を変える」と題し、講演をいただきました。



たい肥共励会審査風景



たい肥共励会褒賞授与式



講演会

### エ たい肥生産組合広報事業

良質たい肥生産流通促進を目的に、「平成14年度静岡県畜産堆肥共励会」に出品したたい肥センターの概要と、各センターのたい肥化の方法、主要成分含有量等を紹介した「平成14年度静岡県畜産堆肥共励会成果集」を作成し、指導機関及び、関係団体に配布しました。



## 成果集及び成果集内容例

### オ 環境美化対策事業

たい肥生産組合におけるたい肥処理施設周囲の環境美化対策及びたい肥生産に係る悪臭や害虫発生の発生防止対策等を実施し、地域との調和を図るとともに、たい肥の生産・利用の促進を目的にたい肥処理施設周囲の花木の植栽や、悪臭等の防止対策を実施しています。

### カ 堆肥施用技術普及推進事業

地域と調和した資源循環型農業を推進するため、たい肥施用土壌の分析を行い、たい肥の施用技術を検討するとともに、その技術の普及定着化を推進することを目的に、土壌分析の実施と分析結果について「家畜ふん尿処理事例集」を作成し配布しました。

**(2)平成15年度の事業計画は、昨年同様、堆肥センター機能強化推進事業による助成及び会費の徴収により、次のとおり実施する予定です。**

＜平成15年度事業計画＞

### ア たい肥生産組合相互間の情報交換

- ・「全国堆肥センター協議会」への参加、協力及び全国のたい肥生産組合の優良事例、良質たい肥化技術の紹介等
- ・たい肥生産組合の運営に関する情報の収集、提供

### イ 良質たい肥の生産技術の普及、啓発

- ・耕種側の求めるたい肥を生産するための技術研修会等の開催
- ・たい肥品質共励会の開催

### ウ たい肥生産組合の環境対策の推進

- ・環境対策を推進するための講演会等の開催
- ・たい肥生産組合の環境美化に対する助成

### エ たい肥の流通、利用の促進

- ・たい肥の成分分析及び散布機能強化等の推進に対する指導
- ・たい肥生産組合紹介冊子の作成
- ・たい肥施用土壌の分析及び適正施用の検討並びに普及推進

### オ たい肥生産組合の円滑な運営の推進

- ・「堆肥センター生産運営能力向上研修会」の開催(9月4日)
- ・たい肥生産組合が抱えている運営上の問題点等の調査及び改善策の検討

特に今年度は、たい肥生産組合の巡回指導に重点をおき、たい肥の分析、たい肥施用土壌の分析を行い、たい肥の流通・利用の促進を図るため、良質たい肥の生産と、適正施用技術について検討することとしています。

また、たい肥生産組合の環境美化(堆肥化施設周囲への花木の植栽、害虫駆除、悪臭対策、不要品の撤去等)に対する助成を行い、地域と調和した体制づくりを支援していくこととしています。

#### 4 おわりに

当協議会の設立に当たっては、全国的な取り組みの中で、行政指導型で組織体制づくりを進めてきましたが、今後、事業を進めていく上では、個々のたい肥生産組合の取り組みはもとより、関係団体、関係機関の積極的な参加が不可欠と考えています。